

会議名称：令和3年度第5回自己評価検討委員会（令和4年3月9日）

開催場所：久留米工業高等専門学校

目的：数理・データサイエンス・AI教育プログラムの令和3年度自己点検および自己評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」の審査項目

| 自己点検・評価の視点 | 評価 | 評価理由 |
|------------------------------|----|--|
| プログラムの履修・修得状況 | A | <p>全て必修科目で本プログラム構成しており、入学する学生全員が履修する。修得状況は教員全員が参加する及落査定会議で確認される。全学生および全教職員が利用しているMicrosoft365を活用し、教材の共有やチャット等による個別指導などを行っており、学生の履修に対するサポート体制が整っている。履修率は100%であり、修得率は進路変更等による若干名の未履修者を除いたほぼ100%に近い状態である。</p> |
| 学修成果 | A | <p>本校は準学士過程における教育目標の一つに「数学、自然科学、情報処理に関する基礎能力の育成」を挙げており、全学科で数理・データサイエンス・AI教育を行っている。学修成果は、本プログラムの構成科目を含む全科目を対象とした年度末の及落査定会議を通じて確認している。</p> |
| 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度 | A | <p>本プログラムの授業科目に対するアンケートは授業改善検討委員会によって学生全員を対象に実施される。アンケート結果は授業担当教員にフィードバックされ、各教員は授業改善に向けた報告書を提出する。また、シラバスには科目のルーブリックが掲載されており、学生自身も理解度を把握できる仕組みとなっている。授業アンケートでは、特に「この授業の内容に興味をもちましたか?」、「この授業は総合的に良い授業だったと思いますか?」の項目が理解度の把握に役立っている。</p> |
| 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度 | A | <p>全学生が本プログラム履修者であるため、履修を促す必要は無い。プログラム履修生であることは担任によりホームルームで説明する。</p> |
| 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況 | A | <p>本プログラムを必修科目で構成しており、1年次入学者はすべて履修者であるため、編入生を除いた入学者に対する履修率は100%である。今後、新たなカリキュラムを編成する際にも本プログラムを達成する必修科目群で構成する計画である。編入生については、編入生のみを対象とした選択科目を用意し、必ず履修するように指導している。</p> <p>平成31年度の1年次入学者から本プログラムが適用され、以降すべての入学者（定員200名）が履修している。</p> |

評価基準

A：達成している、B：ほぼ達成している、C：やや不十分、D：不十分



会議名称：令和3年度第5回自己評価検討委員会（令和4年3月9日）

開催場所：久留米工業高等専門学校

目的：数理・データサイエンス・AI教育プログラムの令和3年度自己点検および自己評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」の審査項目

| 自己点検・評価の視点 | 評価 | 評価理由 |
|---|----|--|
| 教育プログラム修了者等の進路、活躍状況、企業等の評価 | B | 自己評価検討委員会が実施する卒業生を対象としたアンケートにより、本プログラムを修了した卒業生の学習目標達成度や満足度を評価する。修了者の進路（就職先・進学先）はキャリア支援室が把握しており、運営委員会での報告を通じて全教員に共有される。その結果に基づき、カリキュラムの改正は教務委員会で議論される。本プログラムを含むカリキュラムについては、7年に1度程度の頻度で、卒業生の進路先の企業・大学にアンケートを実施しており、これらの評価に基づき改善を行っている。また、学外の有識者を委員とする外部評価委員会を数年に1度開催し、本校の教育・研究に対する提言を得ている。 |
| 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見 | B | 本校を事務局とし、近隣の法人（企業）、個人、団体（公共団体）を会員とするテクノネット久留米の会員企業やインターンシップ受入企業、求人のために来校した企業担当者等を対象としたアンケート、外部評価委員会による提言などを通じて本プログラムの内容・手法等に対する意見を収集している。 |
| 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること | A | 本プログラムには専門学科ごとにプログラムを構成する科目群を準備しており、モデルカリキュラム(リテラシーレベル)の導入部分に準じた内容を展開しつつ、学生が自ら興味を持ち、学ぶ意義を実感できる授業内容となっている。「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」の理解については、授業アンケートの「この授業に関する内容を自主的に勉強しましたか?」、「この授業内容に興味を持ってましたか?」、「この授業は総合的によい授業だったと思いますか?」の回答をもって把握する。 |
| 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業にすること | A | 本プログラムでは専門学科ごとにプログラムを構成する科目群を準備しており、モデルカリキュラム(リテラシーレベル)の導入部分に準じた内容を展開しつつ、学生が自ら興味を持ち、学ぶ意義を実感できる授業内容となっている。内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業にすること、授業アンケートの「この授業について先生は十分に準備していますか?」、「この授業で質問をしやすくするなど、双方向性を持たせる工夫がありましたか?」、「この授業の全体の構成は適切でしたか?」、「この授業で学習する力が身に付きましたか?」の回答をもって把握する。 |

評価基準

A：達成している、B：ほぼ達成している、C：やや不十分、D：不十分

